

平成 28 年度 施政方針

本日ここに、平成 28 年鯉ヶ沢町議会第 1 回定例会を招集致しましたところ、議員各位には応招いただき、感謝申し上げます。

◎28 年度の施政…

それでは、本議会の開催にあたり、平成 28 年度の施政について、申し述べさせていただきます。

全般的な事項及び町の状況

国では、一億総活躍社会の実現に向けて、「強い経済の推進」「子育て支援の充実」「社会保障の基盤強化」の「新・三本の矢」を掲げ、国内経済の活性化や少子高齢化に対応した政策を進めております。

経済の好循環の動きは大都市圏を中心に広がりつつありますが、地方ではまだ景気回復の実感が得られない状況であります。

地域経済の低迷、少子高齢化、人口減少など多くの課題を抱え、町では依然として厳しい行財政運営が続いておりますが、限られた財源を有効に活用し、地域の資源や特性を生かした魅力あるまちづくりを進めてまいります。

政策の柱

私は、町長に就任以来、一貫して「元気あふれるまち再生」を基本理念として、町民が安心し、安定した生活を送れるように、「財政の元気推進」、「町民の元気推進」、「産業の元気推進」の 3 つの元気推進に取り組んでまいりました。

特に本年は、先般とりまとめた「まち・ひと・しごと創生 鯉ヶ沢町総合戦略」のプランを実行し、地域の維持、発展のために全力で取り組んでまいりますので、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主要な政策と基本方針

それでは、主要な政策である 3 つの元気推進プロジェクトとそれぞれの基本方針について申し上げます。

◆財政の元気推進

はじめに、1 つ目の柱、「財政の元気推進」について申し上げます。

ご承知のとおり、財政健全化については、最優先課題として取り組み、平成 24 年度から黒字決算が続いているところであります。

これもひとえに、議員各位並びに町民の皆様のご協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。

当初予算については、新消防庁舎建設関連事業費により歳出額を押し上げているものの、

引き続き特別職及び職員の人件費削減、公債費の抑制により歳出削減を図り、前年度比約12.5%増の71億8千万円の予算を編成いたしました。

人口減少による町税の伸び悩み、地方交付税の減額など、財政的には厳しい状況であります。今後も、計画的かつ堅実な財政運営と積極的な行財政改革を進め、「財政の元気推進」に努めてまいります。

◆町民の元気推進

次に、2つ目の柱、「町民の元気推進」について申し上げます。

町民がいきいきと楽しく、心身ともに健やかで元気に暮らせる町を目指して、平成26年7月に「元気・寿命・幸せアップあじがさわ健康宣言」を行い、町民と行政が一体となって健康意識の向上と健康増進に取り組んでいるところであります。

3年目となる新年度においても、短命の町を返上して、元気で笑顔あふれる町をつくるため、関係団体との連携を一層強化して、健康対策を進めながら「町民の元気推進」に努めてまいります。

◆産業の元気推進

3つ目の柱、「産業の元気推進」について申し上げます。

わが町は、山、川、海の豊かな自然環境、そして特色ある産品や歴史、伝統文化などの豊富な地域資源に恵まれています。

新年度は、北海道新幹線開業や五能線全線開通80周年など、大勢のお客様が訪れる機会が増えることから、地域資源の積極的な活用を図りながら、交流人口の拡大による地域経済の活性化に取り組み、一層の「産業の元気推進」に努めてまいります。

◎各般の施策…

それでは、続いて、各般の施策について申し上げます。

保健・福祉・医療等の充実

まず、保健・福祉・医療等の充実について申し上げます。

すべての町民が、「健康」で「元気」に「幸せ」に暮らせる町をつくるため、新年度においても、「あじがさわ元気推進会議」を中心にして、健康フェスティバル、親子運動教室の開催など健康づくりの取組みを積極的に進めてまいります。

町の総合健診については、受診率アップのために健診日数を増やすとともに、大腸がん検診を無料化するなど、受診しやすい体制にしてまいります。

総合健診を受けられない方のために特定健診、がん検診の個別健診を拡充するとともに、胃カメラ検査の費用助成も実施してまいります。

各種予防接種事業については、新たに乳児のB型肝炎を加え、子どもから高齢者までの感染症予防に努めてまいります。

また、健康に対する意識高揚を図るため、健康スタンプラリーや健やか隊員養成研修を行い、中学生を対象とした親子プロジェクト事業を継続するとともに、虫歯予防のため幼

児や小中学生のフッ素塗布、洗口にも取り組んでまいります。

健やかな妊娠・出産・育児の支援強化に取り組んでいる母子支援センターについては、産前産後ケア、紙おむつの支給拡充などを行いながら、母子の健康維持と子育て支援の充実を図ってまいります。

さらに、町民の健診や予防接種等のデータをまとめた健康管理システムを活用して、効果的な保健事業、保健指導に努めてまいります。

次に、福祉の充実について申し上げます。

町民が生涯にわたり、住み慣れた地域で、健康で安心して生活できるように、保健・福祉・医療の各サービスを一体的に提供する地域包括ケアシステムの体制整備に取り組んでまいります。

高齢者の安心対策としては、町社会福祉協議会などとの連携強化を図りながら、高齢者や障害者等の要援護者を地域全体で支え合う地域福祉の充実にも努めてまいります。

また、「法テラス鯉ヶ沢法律事務所」と連携し、困りごとなどの問題解決の支援にも努めてまいります。

障害者福祉については、自立した日常生活・社会生活を営むことができるよう、相談支援の強化、各種支援サービスの提供を実施してまいります。

一方、児童福祉については、鯉ヶ沢町子ども・子育て支援事業計画に基づき、「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」や「子ども・子育て支援の充実」に取り組んでまいります。

鯉ヶ沢こども園においては、英会話や体育教室などの取組みを継続、拡充し、教育・保育の質の向上に努めてまいります。

また、町内の小学校、保育所、認定こども園の連携強化を図り、子どもたちの健やかな育ちを支援してまいります。

鯉ヶ沢病院については、つがる西北五広域連合と連携を深めながら、今後も地域医療サービスの充実にも努めてまいります。

産業経済の振興

次に、産業経済の振興について申し上げます。

環太平洋連携協定（TPP）の発効に伴い、国内の農林水産業への多大な影響が懸念されております。

このため、町内においても厳しい経営が危惧される状況ではありますが、経営所得安定対策による米、畑作物の直接支払交付金、規模拡大や農地の集約、省力・低コスト生産技術の普及など国、県の支援策を有効活用し、農業所得の向上、経営の安定を図るとともに、新規就農等担い手育成の支援にも努めてまいります。

また、良食米として高い評価を得ている「青天の霹靂」については、多くの農家が作付けできるように関係機関と連携して進めてまいります。

新たに、りんご防風ネットの張替え助成を行うとともに、果樹共済の掛金助成を拡大し、果樹農家の安定生産支援にも努めてまいります。

農林業生産基盤の保全・維持については、引き続き中山間地域等直接支払交付金及び多

面的機能支払交付金を活用し農地保全と機能確保を図ってまいります。

農作物の鳥獣被害対策として、サル、アライグマ等の駆除を継続するとともに、新たに電気柵設置助成、捕獲従事者の育成助成を行い、駆除体制の強化と被害防止に努めてまいります。

一方、漁業を取り巻く環境も、漁獲量の減少や後継者不足など厳しい状況が続いておりますが、クルマエビ、ナマコ、アワビの放流事業費の助成を継続するとともに、ガガメなどの育成試験も支援し、今後の漁業振興につなげてまいります。

さらに、漁業者支援として、漁業資材購入費の助成を継続するとともに、鱒ヶ沢漁業協同組合製氷施設改修費についても助成してまいります。

また、内水面漁業については、「赤石川金アユ」の資源維持増大はもとより、「県産アユ」の安定生産と出荷拡大を図るとともに、イトウについても一層の販売促進に努めてまいります。

商工業・観光業の振興については、鱒ヶ沢町特別保証制度等融資事業の保証による円滑化と関係団体の経営安定、事業支援に努めるとともに、景気対策や雇用対策などの制度を十分に活用し、地域経済の活性化、雇用の創出につなげてまいります。

交流人口拡大と賑わい創出の対策については、北海道新幹線開業、青森杭州便、青森天津便の就航が予定されているほか、7月には青函デスティネーションキャンペーンが始まり、五能線全線開通80周年を迎えることから、本年は国内外からこれまで以上に多くの方々が訪れると思われまます。町観光協会や宿泊施設などと協力連携を図りながら、地域資源を生かした滞在型観光の充実に取り組むとともに、世界自然遺産白神山地、白神の森遊山道など豊かな観光資源を活用した、誘客・宣伝活動を展開してまいります。

また、鱒ヶ沢町タウンプロモーション推進事業計画に基づき、山、川、海の地域資源を全国にアピールし、移住促進に向けた取組みなどを進めるとともに、域学連携事業についても継続し、地域振興、交流人口の拡大、地域経済の活性化に取り組んでまいります。

首都圏における東京鱒ヶ沢会やふるさと応援団との連携を深め、練馬区光が丘地区との交流も進めてまいります。

教育環境の充実と向上

次に、教育環境の充実と向上について申し上げます。

まず、学校教育の充実については、児童生徒の特性と能力に応じた個性を伸ばす教育を進めるとともに、引き続き、心のケア相談員と特別支援教育支援員を各校に配置し、児童生徒が健やかに充実した学校生活を送ることができる環境づくりに努めてまいります。

また、生きた英語に触れることで、英語に対する興味、関心を高めるため、現在、外国語指導助手1名を小学校に派遣しておりますが、新たに鱒ヶ沢中学校にも外国語指導助手1名を配置し、英語教育の充実を図ってまいります。

社会教育の推進については、地区公民館を積極的に活用しながら、地域住民との連携を深め、学習の場を提供してまいります。

生涯スポーツの推進については、健康づくりの観点からも気軽に参加し楽しめる軽スポーツの指導、普及活動を行ってまいります。

教育施設の改修については、室内温水プールの大規模改修及び舞戸公民館のトイレ改修の工事に着手してまいります。

消防・防災行政の充実

次に、防災対策について申し上げます。

昨年も大雨・暴風による床下浸水や道路、河川、農地などへの被害を受け、町民の皆様にご不安とご心配をおかけしたところでありますが、あらゆる災害などに迅速に対応できるよう体制の強化を図ってまいります。

新年度においては、防災の専門的知見を有する危機管理専門員を配置し、自助、共助、公助の意識を高めるための防災教室や防災講演会の開催、自主防災組織の設置支援、県や地域住民との連携協力による防災訓練の実施等により、防災力の強化と安心安全なまちづくりに努めてまいります。

さらに、自衛隊、海上保安部、警察、消防等との連携を強化し、災害時に早急な対応が可能な体制を整備してまいります。

災害時の避難場所となる舞戸小学校、中央公民館に、災害や被害の情報を避難者へ提供できるように情報設備を整備してまいります。

急傾斜地崩壊等の防災対策として、引き続き本町、南浮田地区の整備を実施してまいります。

一方、消防行政については、災害、事故等に的確かつ迅速に対処するため、消防団の再編成に取り組むとともに、消防屯所、車両等の備品装備の充実を図りながら消防署員及び消防団員の資質向上に努めてまいります。

消防庁舎の移転新築については、平成 29 年 3 月末の庁舎完成に向けて事業を進めてまいります。

また、新築に伴い、防災行政無線の予備親局装置を消防庁舎内に整備してまいります。

生活環境の整備、充実

次に、生活環境の整備、充実について申し上げます。

まず、現在通行止めとなっている町道赤石溪流線の整備については、新ルート建設に伴う道路測量設計、用地買収に着手し、県代行事業による早期完成を目指してまいります。

赤石上通り線、目内崎開源橋線の町道改良事業、長平中央線防雪柵の設置事業も継続して実施し、道路の維持補修、冬期間における事故防止、安全で快適な交通確保に努めてまいります。

橋梁長寿命化計画に基づく橋梁改修については、梨中橋の補修工事に着手いたします。

町営住宅については、鳴戸団地 2 棟 4 戸の建設に向けて、実施設計を行ってまいります。

また、安心・安全なまちづくりのため、街路灯の LED 化事業については、新年度から 3 か年計画で着手してまいります。

水道事業については、衛生的な水の安定供給と健全な経営に努めるとともに、効率的な経営体制の確立を図るため、平成 29 年 3 月の統合を目指し、上水道と簡易水道の事業統合を進めてまいります。

上水道事業では、舞戸岩谷地区の配水管布設替工事を実施し、簡易水道事業では、中村、

浜横沢地区の配水管布設替工事を実施してまいります。

また、公共下水道については、平成 32 年度までの整備計画に基づき、新年度も本町、新町地区の整備工事を継続実施してまいります。

地域公共交通の確保維持については、鱒ヶ沢町地域公共交通網形成計画に基づき、平成 29 年 4 月のコミュニティバスの運行を目指して準備を進めてまいります。

試験運行している買い物支援バスについても、引き続き、事業効果を検証しながら進めてまいります。

環境保全対策については、継続して海岸に漂着・放置された散在ごみの回収処分を行い、良好な景観・環境維持に努めてまいります。

また、公共施設及び道路、橋梁などの全般的な基本方針を定める公共施設等総合管理計画については、今年度中の策定を進めてまいります。

七里長浜港・高速交通の整備促進

次に、七里長浜港については、新年度も平成 30 年度の完成を目指し南防波堤の整備を行ってまいります。

取扱数量については、建設用資材を中心に平成 24 年度から 4 年連続で 10 万トンを超えており、今後もさらなる利用促進、取扱量の拡大を目指し、関係機関、諸団体と連携し、引き続き県内外の企業等に対しポートセールスを行ってまいります。

また、今般、津軽地域で生産される飼料用米の積み出し拠点として、七里長浜港を活用する構想が、飼料原料を供給する民間企業から打ち出されました。当町においても、港湾の利用拡大による地域への波及効果を期待できることから、今回提案された構想は大きなチャンスであり、その実現化に向けて取り組んでまいります。今後策定する平成 31 年度以降の新たな港湾整備計画においても、これらの利活用構想の実現化を反映させるものとなるよう、県や関係機関等と協議を進めてまいります。

整備中の津軽自動車道「鱒ヶ沢道路」は、本年夏ごろの開通予定となっておりますが、引き続き、柏～浮田間の未着工区間の早期整備について、国、県に対し強く要請してまいります。

企業誘致等の推進

企業誘致等の推進について申し上げます。

自衛隊誘致については、これまでも自衛隊訓練の実施場所として受け入れてまいりましたが、昨年は陸・海・空の自衛隊が鱒ヶ沢で訓練を実施しております。訓練の受け入れを継続しながら、鱒ヶ沢町自衛隊誘致促進期成会と共に積極的に要望活動を行うとともに、今後も防衛協会津軽地区連絡協議会と連携して取り組んでまいります。

また、そのほかの企業誘致についても、県内外企業等の情報収集等を進めてまいります。

地方創生の推進ほか

地方創生の推進について申し上げます。

だれもが住みよい鱈ヶ沢町であり続けるために、昨年12月、「まち・ひと・しごと創生鱈ヶ沢町総合戦略」を策定いたしました。

「安定した仕事をつくる！あじがさわ」、「移住者にもやさしい！あじがさわ」、「子育てをささえる！あじがさわ」、「町民を元気にする！あじがさわ」の4つの政策分野について、平成31年度までの5年間で総額8億6千万円余りの事業計画を取りまとめたところであります。

新年度においても、小学生までの医療費無料化を継続し、子育て世帯の経済負担の軽減を図るほか、観光振興基盤の強化、コミュニティビジネスの支援など活力あるまちづくりに取り組んでまいります。

町内での消費喚起のため、商品券の発行を継続し、10%のプレミアムが付いた1万1千円分の商品券1セットを、1万円で販売いたします。総額で1億1千万円、10,000セットの販売を予定しております。

ふるさと納税については、平成20年の制度開始以来、多額の寄付をいただき、「あじがさわ未来応援基金」として積み立てて、様々な取組みに活用させていただいてきたところではありますが、昨年4月からお礼品の内容を見直したところ、昨年12月までに8,200万円の寄付が全国各地から寄せられました。

寄せられた寄付金は、教育文化の発展、産業振興、福祉の充実など、子どもから高齢者まで、すべての町民が元気に安心して暮らせるまちづくりのため、幅広い分野で活用してまいります。

今後も町の魅力を大いにアピールして、地場製品の販売促進につなげる取組みを積極的に進めてまいります。

◎終わりに…

終わりに、人口減少、景気低迷など厳しい状況の中ではありますが、今後も町民の皆様との協働により、一人ひとりが住みやすく、学びやすく、子育てしやすく、生き生きと輝き、「鱈ヶ沢町の住民でよかった」と思えるまちづくりに全力で取り組んでまいります。

議員各位並びに町民の皆様方におかれましては、これまで以上のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、施政方針と致します。

平成28年2月25日

鱈ヶ沢町長 東 條 昭 彦